令和４年度　東京都北区立堀船中学校

堀船中だより

令和５年３月　　特別号

校長　阿久津　光生
〒114-0004
東京都北区堀船 2-23-20
Tel 03-3911-8817

北区教育ビジョン 2020 の人間村長の精神を基調とし、
心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標　**自ら学び　自ら考え　自ら行動できる生徒**

《ボランティア部　堀船南保育園の園児の皆さんに、プレゼントをお渡ししました》

３月 14 日（火）の放課後、ボランティア部の皆さんが堀船南保育園を訪問し、園児の皆さんに、ボランティア部の皆さんが手作りした金メダルをプレゼントしました。園児の皆さんはとっても喜んでくれた上、お返しに、元気で可愛らしいお歌のプレゼントをしてくれました。温かい心と優しさにふれて、その場にいる全員が幸せな時間を過ごすことができました。ボランティア部のみなさん、ありがとうございました。

《全校集会　「つなげよう堀船中学校」を行いました》

３月 16 日（木）、体育館で全校集会を行いました。テーマは、「つなげよう堀船中学校」です。全学年が揃っての集会はこれで最後になりました。３年生のみなさんが卒業式を迎えるにあたり、生徒会、３年学級委員会のメンバーが自主的に企画・運営をしてくれて、吹奏楽部のみなさんが演奏を担当してくれました。堀船中学校を愛する生徒のみなさんの思いのこもった、温かなセレモニーとなりました。

生徒会役員のみなさん、３年学級委員会のみなさん、そして演奏してくれた吹奏楽部のみなさん、本当にありがとうございました。

《祝　第 67 回卒業式を無事挙行いたしました》

３月 17 日（金）の午前 10 時より、第 67 回卒業式を無事挙行いたしました。式は厳粛に執り行われ、65 名の卒業生に卒業証書が授与されました。ご来賓代表として清正浩靖教育長、小林 PTA 会長よりご祝辞を頂戴しました。また、在校生を代表して２年生の渡邉（英）さんが送辞を行い、答辞は卒業生を代表して種村さん、林（優）さん、大塚さんが行いました。祝辞・送辞・答辞と素晴らしいお言葉をいただき、式歌や最後に全員で歌った校歌も大変感動的で、心のこもった素敵な卒業式となりました。

なお、卒業式には、在校生全員に加えて、来賓 30 名、保護者 78 名、計 108 名の皆さまにお越しいただきました。誠にありがとうございました。

《1・２学年キャリア教育　進路講演会を行いました》

３月 22 日（水）13 時 30 分から、１・２学年キャリア教育進路講演会を行いました。この進路講演会の目的は、それぞれの分野で活躍されている職業の方からお話しを伺い、職業に就く意義や大切さを学ぶために行いました。

講師には、一般社団法人「せんとうとまち」代表理事、法政大学・慶応義塾大学非常勤講師の栗生はるか様と、東京慈恵医科大学産婦人科学講座・杏雲堂病院産婦人科専門医の中河西絵様にお越しいただきました。お二人の先生は豊富な経験を基に大変興味深い講話をしてくださり、非常に有意義な時間となりました。

《祝　表彰おめでとうございます》

【令和４年度あいさつ運動啓発ポスター】
感謝状・記念品贈呈　２年生　重永さん

【北区明るい選挙啓発標語（キャッチコピー）】
３年生　小澤さん「誰かじゃない、自分で入れよう、夢への一票」
３年生　瀬川さん「この一票　無駄にできない未来のために」
１年生　西元さん「初投票　小さな一歩　大きな未来」

本当におめでとうございます。

北里柴三郎の死

昭和 6 年(1931 年)6 月 13 日、北里柴三郎は突然の脳溢血で 78 年の生涯を閉じました。北里の訃報は当時まだ珍しかったラジオの臨時ニュースで全国に放送され、翌日の新聞各紙でも一斉に報じられました。さらに、訃報は国内だけでなく、全世界に向けて伝えられました。6 月 17 日、葬儀会場となった青山斎場は多くの花輪で埋め尽くされ、医学会や政界の名士が一堂に集まり、その数は 4,000 人を超えました。北里の墓は青山墓地にありますが、それとは別に、かつてコッホが亡くなった年に北里が建てた「コッホ祠」の傍に、北里研究所の師弟たちが「北里祠」を建立しました。その後、昭和 20 年の東京大空襲の際に北里祠は消失しましたが、幸いにもコッホの祠は残ったため、コッホと北里を合祀して「コッホ・北里神社」と改称しました。現在、北里研究所の守護神としてお祀りしています。

コッホ・北里神社

【提供】学校法人北里研究所北里柴三郎記念室

港区白金にある北里研究所に毎月足を運び、出筆原稿に御教示をいただく際に、コッホ・北里神社に参拝に立ち寄るのが私(筆者)のルーティーンでした。人類と感染症との決して終わることのない闘いに生涯をかけた、東西 2 人の医聖。新型コロナウイルス感染症の感染者数が連日ニュースで報道される中、彼らを奉るこの社に宿る神々しさを肌で感じるとともに、コロナ禍の収束を 2 人に祈るばかりでした。

省みて、北里はドイツのベルリンに留学し、憧れのコッホの下、欧米人が先導する微生物学の分野で研鑽を重ね、破傷風の純粋培養の成功や免疫血清療法を生み出す等、世界初となる数々の画期的な研究を成し遂げました。その業績が高く認められ、第 1 回ノーベル生理学医学賞の候補に挙がる等、北里はその名を世界に知らしめた最初の日本人となったのです。世界から賞賛を受けた北里は、ケンブリッジ大学の細菌学研究所長を始めとする世界最先端の研究機関での地位や名誉が約束されていたにもかかわらず、それらの招きを全て断り、帰国することを決めていたのです。当時の日本には、北里が入るべき研究所すら存在していませんでした。しかし北里には、国費を注ぎ込んでドイツ留学を許してくれた祖国への感謝と、コレラ、結核、ペスト等、多くの感染症に苦しむ祖国の人達のために働こうという強い思いがあったのです。そして帰国後には、日本初の伝染病研究所の創設や、世界三大研究所の 1 つに数えられる北里研究所の開所、慶應義塾大学医学部の設立、さらには日本医師会初代会長の就任等、人材と組織という両面から日本の近代医学の礎を築き、その発展に大きな貢献を果たしました。

北里の人生において常にその確信にあったもの、それは医学を学術的な研究対象として捉えるのではなく、病気の治療と予防を何よりも最優先に考える医師としての誠実な姿勢に他なりませんでした。北里が「北里研究所」を設立してから半世紀、創立 50 周年事業として、昭和 37(1962)年に「学校法人北里学園」が設置され、「北里大学」が設立しました。開校した当初は、衛生学部があるだけでした。それ以降、薬学部、畜産学部、衛生学部、教養部、医学部(医学科)が増設されます。北里は常々、「事を処してパイオニアたれ。人に交わって恩を思え。そして叡智をもって実学の人として、不撓不屈の精神を貫け」と門下生に説いていました。その信念は、「開拓」「報恩」「叡智と実践」「不撓不屈」を建学の精神として、今なお北里大学に深く息づいています。

港区白金「北里研究所」 全景

【提供】学校法人北里研究所総務部広報課

最後になりますが、未知の感染症に挑んだ北里柴三郎博士の生涯を追うにあたり、この 1 年以上にわたる御指導と様々な資料の御提供を快諾してくださった北里柴三郎記念室の皆様に、改めて感謝申し上げます。